はじめに

川は陸域の自然環境を語るときに，もっとも好都合な生態系である．日本の河川は一般に，脊梁山脈の森林に源を発し，多くの支流を集めて，徐々に川らしくなり，盆地を通過し，再び山地を経て，最後に平野に流れ出し，河口部から海に至る．一本の川はこのように多くの支流の水を集めて海に流れ下るのである．そこで一本の川の水を集める地域を集水域，あるいは流域と呼んでいる．日本列島は数多くの川の流域にわけることができる．ジグソーパズルのそれぞれのピースが各河川の流域として日本列島を形成していると考えてもらってよい．

川は，水とともに，流域の土砂と栄養塩（窒素やリンといった生物体を構成する重要元素）を運んでいる．したがって，上流の森などの，土砂と栄養塩の供給源となる生態系の状態が川の生態系を決める大きな要因のひとつになっている．逆に考えると，川をみれば，上流域がある程度想像できる．

川は，人にとって遊びや交流の場でもある．最近ではアウトドアブームにのって，河原でレジャーを楽しむ人の姿も目立つようになっている．この姿は，かつての魚とりや泳ぎに代表される水辺での遊びとは，やや違ったものになっている．

本書は，兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）の研究員が中心となって，2002年から2006年にかけて行われた「武庫川の総合共同研究」の成果である．武庫川は兵庫県の東の端を流れる２級河川であるが，ひとはくは，その上・中流部にあたる三田盆地のなかに位置しており，ひとはくにとって武庫川はもっとも身近な河川である．ひとはくの研究は，「人と自然の共生」をその第１課題としており，本書も，武庫川の地形・地質，そこに生息する植物や動物，そして人との関わりをテーマとしている．

本書のなかに語られているように，武庫川は先に述べた日本の河川の一般的な形態とは違った特徴をそなえている．また，別の面では典型的な日本の河川でもある．

本書をお読みになって，川にかかわるいろいろなことを楽しく学んでもらえれば幸いである．

2006年３月

江　崎　保　男